

『 東北関東大震災は国難である 』

東北関東大震災発生後、一週間を過ぎようとしています。現地は地震、津波による被害、原発事故による避難と不安の三重苦にあえぎ、さらに寒波と飢え、救援物資の搬送困難が加わり、阪神淡路大震災を遥かに超える未曾有の困難の渦中にあります。

皆様方も親類縁者に直接、間接的に被害をこうむられた方がおられることと思います。私も遠い縁戚ではありますが、陸前高田での安否が気掛りです。10数年前当地を訪れた時、陸前高田湾に沿った見事な松原と、その内側には外国の人が見学に訪れる程立派な防潮壁（津波対策）がありました。

今回当院においてもHDFに必要な、茨城で生産されているサブラットBSGの供給がストップしました。通常透析に切り替えることにより、当分支障はありませんが、先般の阪神淡路大震災でも、困難な物資搬送被害を受けた経験があります。以後日本の企業は十数年前から生産拠点の分散化を進めていますが、東京関東圏へ、人口・生産の一点集中が加速度的に進行しているのが現状です。

原発事故も一見自然災害で避け得なかったように見えますが、約30年周期の大きな地震と津波発生、千年毎に起こる巨大地震と津波による被災、東電の十分な説明と住民の納得のもとに二重三重の備えがされたとは思いません。

しかしながら想定外の・・・、でも何だか充分でなかったような、もっと手立てがあったのでは、当事者の間でパニックと疲労の極限にあったとはいえ、人為的判断と行動にミスがあったと思わざるを得ません。

遠く離れていても、私共にできることは何でしょうか。

思い遣り、日常の自粛、募金活動、ボランティア活動など沢山やるべきことがあるでしょう。世界の国々から沢山の協力要請、お見舞いが寄せられています。しかしどうして災害の中で円高になるのでしょうか。一度は世界中を相手に戦って疲弊の極みに達した経験のある日本が、再度の未曾有の困難に向かっているか、世界中の人々が固唾を呑んで見守っているのが肌身に感じられます。今私達ができることは、残された力の総力を挙げて再建に向けて努力して見せる必要があります。

はまゆう会でも自主的に募金活動が始まりました。

長期になるかも知れませんが、入院透析受け入れの要請に対して協力を申し出ています。

募金活動は3月23日迄（第一回目）となっており、ご協力宜しくお願い致します。尚、財団はまゆう会でも別途支援をしていきたいと考えています。

平成23. 3. 17

理事長 市丸 喜一郎